

愛労連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町 9 - 7
労働会館東館 3 F
T E L 052-871-5433
F A X 052-871-5618
U R L <http://www.airoren.gr.jp>
発行人 樽 松 佐 一
第110号 2002年 9 月10日

愛労連青年協

ソフトボール大会!

と き 10月14日(祝) 9:00開会
ところ 木場南公園グラウンド(飛島村)
参加費 1チーム 3,000円
※問い合わせ・申し込みは、愛労連事務局まで



切実な声が寄せられた事業者との懇談会

8月22日、愛労連と社保協が呼びかけて開催した「訪問介護事業者懇談会」には県下から23事業者27名が参加しました。参加者は圧倒的に女性、この分野で女性が頑張っていることを強く感じさせられる懇談会となりました。事業所の多くが小規模

東名阪トレーラー追突事故 運賃ダウン 走らなきゃ食べていけない



会社に戻ってからの洗車作業、もうクタクタ

8月10日未明、東名阪自動車道でトレーラー運転手が居眠りをし、帰省フッシュで渋滞中の車の列に突っ込み5人が焼死、6人がケガという大事故が起きました。休憩を一度も取らずに9時間も走行しての事故でしたが、トラック労働者の過酷な労働実態について同乗取材しました。なお、取引先との関係配慮し、社名などについて伏せさせていただきます。

危険と隣り合わせの長時間労働 睡眠時間犠牲の上に成り立つ物流

タンクローリー
同乗ルポ

休憩より早くうちに帰って 明日に備えたい

3時15分、四日市の基地に到着。積み込み作業の始まるまで暫し車中で待機。基地内には、続々とトレーラーが並び始め、4時15分から積み込みが一斉に始ま

ハンドルを握るのは清水博文さん(44才)、建交労の組合員です。この日、清水さんが運転するのはガソリンや軽油などを出荷基地から各地のガソリンスタンドまで運送するタンクローリーで、積載量は24K、ドラム缶で120本分にもなり、車の長さは約15mという非常に大きなトレーラータイプの車です。

り、1回目の配達先となる豊川市のスタンドへ走りまゐります。到着すると休む間もなく荷下ろし作業(スタンドへの給油)を始めますが、作業は決して楽なものではなく、給油ホースを次々と

このように勤務は3日間続きます。再び四日市へ戻り、1回目の配達先となる豊川市のスタンドへ走りまゐります。到着すると休む間もなく荷下ろし作業(スタンドへの給油)を始めますが、作業は決して楽なものではなく、給油ホースを次々と

働くルールの確立は待ったなし

くして欲しい」という声が多く出されました。「80人が研修を受けに来たが就職した人はゼロ」という事業所もあり、条件を大幅に改善しないとヘルパー不足は解決できません。また、介護保険では移動時間に点数

事業者の切実な声を自治体キャラバンへ 介護事業者懇談会を開催

行政に対する要望では、「ヘルパーやケアマネの研修」制度変更に伴うパンフやパソコンソフトの援助」などが出され、来月の自治体キャラバンではこれらの要求と事業者アンケートの声を市町村に伝えます。

過酷な3日間

これが清水さんの1日!

この勤務を3日間続け、6日間は朝6時頃からの勤務をこなし、再びこの勤務に入るサイクルで働き続ける。

19:00	就寝	
0:10	起床	
0:45	出勤・運行前点検など	
1:10	会社出発	104km 走行
3:15	四日市出荷基地着(待機)	
4:15	積み込み	
4:45	出発	92km 走行
7:03	豊川市内GS着・荷下ろし	
7:56	出発	100km 走行
10:00	四日市出荷基地着・積み込み	
10:30	出発(前に10分休憩)	83km 走行
13:48	豊橋市内GS着・荷下ろし	
14:05	待機	
16:50	荷下ろし	
17:10	出発	14km 走行
17:45	会社着・洗車や給油など	
18:29	退社	

会社に戻り給油や洗車、報告書を書き終え、タイムカードを押したのは18時29分。じつに17時間44分もの勤務でした。清水さんはこの日が3日目の勤務でしたが、前日までの退社はともに16時台。過酷な勤務を強靱な体力と集中力で続ける清水さんにただ脱帽。組合のない職場ではさらに過酷な運行が当たり前ではないかと言う。人間らしく安全に働くためのルール確立は待ったなしです。



夜明けの23号線を朝日を浴びながら東へ走る清水さん
多くのトラックで、すでに道路は渋滞気味

夏休み、長野へ
県知事選の応援に
行った。脱ダムだ
けではなく福祉や森林予
算の増額などの実績を知
ることができた。「県民
のための奉仕者として、
県民に仕える仕事をする
ことを約束したい」愛知
にもこんな知事が欲しい
▼日ハム・東電・三井物
産、各業界のトップ企業
の不正が発覚した。東電
社長は「前に隠したのが
尾を引いて今日に続い
た」と言う。荒木会長は
日本経団連の「企業行動
憲章の見直し」委員長を
辞任した▼企業の不正隠
ぺい体質も問題だが告発
を二年も隠した原子力保
安院は「通報者の保護の
ため」「東電の協力が得ら
れなかった」と言い訳し
た。「国も東電も同じ穴
のむじな」と福島県佐藤
知事は怒りをあらわにし
た。牛肉買い取り制度の
問題で農水省は「業者が
悪意を持つとは想定しな
かった」と責任を回避し
ている。原子力では告発
者は法律で守られる。一
方、雪印の事件を告発し
た倉庫会社は農水省から
処分をうける。また協和
香料では全員が解雇され
た▼「慚愧(さんき)」に
耐えない」のは連合の笹
森会長。事故隠しの当時
東電労組の委員長だっ
た。5日のラジオ番組で
も「こういう時は労働組
合が大事ですよ。でも
東電の労働組合は弱いか
ら」と言われる始末。企
業でも公務でも「民主」
経営でも労働組合のチェ
ック機能が重要だ。(k)



「このまま司法は死んでしまうのか」と萩原典子弁護士

負けたら会社の弁護士代も！ 敗訴者負担制度ってどんなもの？

司法制度改革の議論が活発化していますが、そのなかで「敗訴者負担制度」導入の動きが急浮上してきています。こうしたなか、この問題を考える懇談会が8月29日、名古屋市中区の伏見NPOセンターでおこなわれ、約40人が参加しました。懇談会では萩原典子弁護士が1時間程度講演、そのあと質疑、討論がおこなわれました。

「敗訴者負担制度」とは、訴訟を起し、裁判に敗訴した方が勝訴した方の弁護士費用をも負担することです。これが導入されると普通の市民事件（医療訴訟や消費者事件など）では、いまでも勝訴の見込みが困難な事件が多いのに、そのうえ敗訴者負担制度が導入されれば、訴訟そのものを起すことをとりやめざるを得なくなり、このことは労働裁判も例外でなく、裁判費用の負担は重く労働者にのしかかっていきます。

政府の司法制度改革審議会は、この制度の導入について「訴訟を起すことを萎縮（いしゆく）さ

本音が出し合える交流大切に

魅力ある組合活動をめざして 全国一般小太郎漢方分会



矢田川花火での交流会には管理職や家族も招かれました

「わずか11人の小さな分会ですが、全員が何らかの仕事を担当し合っている。組合活動をすすめていまして」と語るのは全労連・全国一般労働組合愛知支部小太郎漢方分会の分会長である松本利一さん。「営業なので、とにかくみんなが集まれるように努力しています」と福本隆明書記長。

小太郎漢方製薬(株)は本社を大阪に置き、工場を大阪・石川、支店や営業所を札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡に展開する漢方製薬メーカーです。従業員は約270名で多くは同じ全労連傘下の化学一般労連に加盟しています。昨年4月まで小太郎漢方分会は、化学一般と連携を

取って要求提出と団体交渉を統一のテーブルで行ってききましたが、会社側の退職金削減提案に対する考え方の違いなどから独自の交渉を持つようになりました。



松本分会長と福本書記長

要求を大切に デメリット乗り越え

「11人という小さな組織だけで本当に要求が前進するのか、分会は営業所だから工場など他の要求を取り上げられないことなどへの危惧もありましたが、企業内のたたかいは限界があるもど地域に出て社会的にたたかってこそ未来が開けることや、これまでに取り上げられなかった一人ひとりのきめ細かな要求をストレートに出せることなどから独自交渉の道を決断しました」と言います。今年の春闘では、打ち切りとなっていた従業員の交流企画への補助制度を復活さ

せることもできました。分会の構成は40代前後が少なく親子ほどの年齢差があることから、月1回の分会会議を丁寧に行うと同時に本音が出し合える交流の場も大切に行っています。8月には交流会補助制度を活用して、矢田川の花火を見ながらバーベキューを楽しむ交流会も行いました。分会のモットーは「一人はみんなのために、みんなは一人のために」仕事もキツリやろうです。松本さんは今後の課題について「魅力ある組合活動の探索」と語っていました。

プライバシー丸見え 採算無視の Gondola 計画

革新県政の会が 会場調査を実施



中央の空き地上空を Gondola が通過。右側には住宅地

愛知万博まで1000日を切り、主会場となる青少年公園周辺は東部丘陵線や名古屋瀬戸道路などの建設ラッシュとなり、山は削られむき出しになり、橋脚が乱立し、たくさん大型重機でものしい雰囲気です。8月23日、革新県政の

会は万博会場予定地や自然環境や住民との矛盾を広げている関連工事を調査しました。昨年12月に突然、基本計画に盛り込まれ住民を驚かせているのが青少年公園と海上の森地区を空中で結ぶ Gondola 計画です。「住環境を問答無用で壊されるのは人権問題。必要なアクセスメントもしていない」と、Gondola が南側40m程の上空を通過する瀬戸市上之山3丁目町内会は計画に反対しています。「お客さんには前を向いてもらう」と博覧会協会は説明。まったくあきれてしまいます。採算計画もムチャクチャで、建設費は50億円ですが、入場制限のある海上の森地区

に入れるのは150万人。すべての人が Gondola を利用したとしても採算は取れずに赤字です。さらに、たった6ヶ月の万博開催中のみの仮設で、終われば撤去されるムダ使いです。「自然破壊、人権・採算無視であることがはっきりした。04年のパリ博は中止を宣言した。愛知でも知事選に勝利して」と参加者は語っていました。



東部丘陵線の工事現場

おやま ばす

NO.8 通信労組

単身赴任で名古屋へやって来ました。NTTは今4月から、50才になると退職して子会社への転籍か、退職しないなら広域移動と職種転換をも迫る事実上の50歳定年制を一方的に強行しました。このもとで、新しい仕事に苦しみ自殺する労働者

働きがいさえも 奪われた

「子どもが大学生で、大幅な賃金ダウンに伴う転籍は経済的に厳しかったし、NTTの身勝手なやり方は許せなかった」

高知に戻って 技術と経験を生かしたい

森岡 幸一 さん
通信産業労働組合愛知支部
(高知支部委員長)

と、森岡さんは転籍を拒否した訳を語ります。森岡さんは1967年に、市外通話網の通信設備建設やメンテナンスを行う技術者として入社、配転前までの3年間は通信設備建設の施工・管理を行い、下請会社からも信頼されてきました。し

かし、異動後は経験のない営業職にされ、ADSLや光通信などのインターネット通信サービスを小規模事業所に販売しています。「地図を頼りに徒歩での飛び込み営業なので、真夏はワイシャツがいつもビショ濡れでした」と苦勞を語ります。森岡さんは通信労組高知支部の委員長ですが、この配転にはNTTの組合つぶしの意図も見えてきます。これに対し、秋

には遠距離配転と組合つぶしを狙った不当労働行為で名古屋地裁と高知地労委に提訴します。「地元に戻ってもこの仕事が生かしたい。技術や経験を生かし、労働者が働きがいを持って働くことにこそ企業の未来があるのではないでしょうか。」